



マックシールプレス

異病院における 整形外科について

2月号

I 整形外科 中村 誠也 医師

II 整形外科 中尾 浩志 医師

田之頭 今月は、「異病院における整形外科について」中村先生・中尾先生にお話をお伺いしたいと思います。では、現状の診療状況についてお聞かせください。

中村 まず、外来については、一昨年の診療報酬改定により一定の期間を超えるとリハビリが算定できなくなったことに伴い、受診者数もやや減少傾向が見られます。

田之頭 そうですね。確かに患者さまや医療機関に与えた影響は大きいものでありました。

中尾 今後はなるべく外来も増やしていければとは考えています。

田之頭 では、手術に関して H17 年は 196 件、H18 年は 228 件、H19 年は 300 件と年々増加傾向にあります。その点はいかがでしょう。

中尾 手術件数の増加に関しては、H19 年 7 月に中村先生が着任されたことによるものが大きいと思います。

中村 交通外傷などによる救急患者さまを積極的に受け入れていることも増加要因の 1 つです。救急患者をお断りする事なく、迅速に手術に持って行くように心掛けています。このままの受け入れを続ければ、年間400件というのも可能になってくると思います。

小田垣 年間400件ですか？すごいペースになりますね。病床の回転を考えないといけませんね。

中尾 そうですね。ベッドが満床になった場合は救急搬送の依頼が入ってもお受けすることができなくなります。



《 中尾浩志医師 》



《 中村誠也医師 》

中村 そのため、整形外科で入院された方のうち、約半分程度の患者さまは異今宮病院へ転院していただいています。残り半分の患者さまは退院し通院されています。異今宮病院へ転院されるケースには高齢の方が多くいます。

中尾 異今宮病院、異老健はもちろん、地域の関係施設ともスムーズな連携がとても重要です。

小田垣 そうですね。これからも病院間での連携を計って行く必要がありますね。では、両先生の得意な診療分野についてお聞かせください。

中村 外傷関係は基本的に得意です。毎週木曜日には専門外来「手の外科」も行っています。今後、手術顕微鏡などが設置できればより複雑な手・手指の骨折等に対しても治療が可能になります。

中尾 私はリウマチ分野を得意としています。社会の高齢化が進んでいますので、慢性関節リウマチなど、患者さまの要望にできるだけお応えしたいと考えています。

小田垣 では、最後に今後の目標についてお聞かせください。

中村 池田市を中心とした豊能地域で 24 時間救急医療を担う病院として、より素早い充実した対応が可能となるよう体制が整備できればと考えています。

中尾 救急隊などは「骨折があれば異病院へ」と、随分、認知していただいています。地域の皆様からのご要望にお応えし、日々の診療を大切に行い、根のはえた信頼関係の構築に勤めていきたいと考えています。

部署紹介

巽今宮病院 看護部

瀬島悦子 看護師長
白石清乃 主任



《 看護部 師長・主任・副主任会 》

当病院看護部は1階一般病棟 30 床、2 階回復期リハビリ病棟 40 床、3 階療養型 40 床、計 110 床の病院です。平成 18 年 4 月に新規開院して 3 年を迎えようとしています。初めの 1 ヶ月は何もかも手探り状態でしたが、スタッフ同士で話し合い物品準備、業務手順、看護手順など作成を行い、5 月から患者様の受け入れを始めました。

現在は、中谷副院長、原看護部長のもと、物品整理、業務改善などスムーズに行うことができ、スタッフがとても働きやすい環境となりました。

今後は、人工透析患者様の受け入れも予定し準備中です。巽病院(石橋)との連携を密にして、今後も改善を行いながら患者様のニーズに合った看護が出来るよう頑張っていきたいと思えます。

病気アラカルト

リウマチについて

整形外科部長 中尾 浩志医師

関節リウマチは全身の炎症性疾患であり、種々の関節が破壊されることで運動機能が低下し日常生活が困難となってくる病気です。

原因はいろいろ研究され、遺伝的素因や環境要因が関係して免疫異常を起こしているのだろうと言われていますがいまだに詳しくはわかっていません。ただ診断、治療に関してはかなり進歩してきました。以前は、リウマチを疑った際は X 線や採血とともに 6 週間続く症状をあわせて診断項目を満たせばリウマチであると診断していました。これでは早期のリウマチの人はなかなか治療ができないという状態でした。最近はかなりリウマチにおいて特異度の高い抗体が見つかっており、MRI の画像などに加えより早期に診断し治療が開始できるようになって来ました。

また抗リウマチ薬も進歩してきました。今まではステロイド剤や免疫調節剤、免疫抑制剤程度でどうしてもコントロールしきれない方がおられました。最近、いわゆる生物製剤というものが開発され、これまでの薬ではとれなかった腫れや痛みが劇的に改善するということも認めるようになって来ました。治療費や副作用の問題はありますが安全に使えれば非常に有用な薬だと思われれます。

この薬を使用する事で、ある程度破壊された関節が修復されるとの報告もありますが破壊され機能障害に陥った関節にはやはり手術が必要となってくることも多いです。股関節や膝関節の人工関節は長期成績も安定してきており満足度の高い手術といえると思えます。また変形し機能障害になった手に関しても手術が有用な場合があります。

リウマチはやはり早期診断、早期治療が大切だと思います。その上で機能障害が生じたとしても、手術をすることで生活の質が改善することがありますから悩んでおられる方は気軽に相談していただければと思います。